

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和7年 6月 1日

茨城県県知事
大井川 和彦 殿

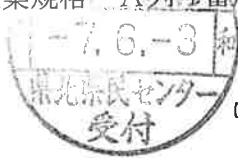
提出者 茨城県常陸太田市小目町517番地
住 所: 株式会社梅原工務店
氏 名: 代表取締役社長 梅原 基弘

電話番号: 0294(74)2166

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 梅原工務店
事業場の所在地	茨城県常陸太田市小目町517
計画期間	令和7年 4月 1日～令和8年 3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	06:総合工事業
②事業の規模	完成工事高 849百万円(前年度[令和6年度]実績)
③従業員数	21名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<ul style="list-style-type: none">・ 構造物取壊(コンクリート構造物、アスファルト構造物) 構造物撤去 → 再生処理業者に委託して再生砕石又は再生合材として再資源化・ 金属くず、紙くず、廃プラスチック、廃石膏ボード → 再生処理業者に委託 → 再生利用・ 木くず → 再生処理業者に委託 → 再利用・ がれき類、ガラス、陶磁器くず、繊維くず → 最終処分業者に委託

(日本工業規格 A列4番)



柴

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

社長（産業廃棄物処理総括責任者）

総務課（委託契約管理担当）

工務課 ——— 作業所 ——— 現場代理人（産業廃棄物管理責任者）

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】							その他 別紙2のとおり	
	産業廃棄物の種類	コンクリート殻	アスファルト・コンクリート殻	廃プラスチック類	建設汚泥	木くず	混合		
	排出量	133.45 t	997.58 t	12.17 t	1.20 t	255.55 t	0.55 t		
	<p>（これまでに実施した取組）</p> <ul style="list-style-type: none">・取壊工での影響範囲を出来るだけ最小となるよう丁寧に施工した。・各廃棄物の分別処理・生活廃棄物の持ち帰り・作業所における適正な保管								
②計画	【目標】 前年度排出量の 約20%削減 その他 別紙2のとおり								
	産業廃棄物の種類	コンクリート殻	アスファルト・コンクリート殻	廃プラスチック類	建設汚泥	木くず	混合		
	排出量	106.76 t	798.06 t	9.74 t	0.96 t	204.44 t	0.44 t		
	<p>（今後実施する予定の取組）</p> <ul style="list-style-type: none">・協力会社においても、丁寧な施工の協力を依頼する。・協力会社へ製品の梱包材等の簡素化や持ち帰りの協力を依頼する。・廃棄物と有償物の分別を実施する。・排出までの適正な保管を実施する。・優良認定処理業者への委託を推進する。								

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・アスファルト殻、コンクリート殻、木くず及び廃プラスチック、ガラス、汚泥はそれぞれ分別している。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ・上記に加え、金属くず、紙くず等についても分別を実施する。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 自社における実施予定はない。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 自社における実施予定はない。		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組）		
自社における実施予定はない。			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート殻	アスファルト・コンクリート殻
	全処理委託量	133.45 t	997.58 t
	優良認定処理業者への処理委託量	1.75 t	t
	再生利用業者への処理委託量	131.70 t	997.58 t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	・再生利用業者への処理委託を推進し、最終処分量の削減を図る。		

②計画	【目標】 前年度排出量の20%削減		
	産業廃棄物の種類	コンクリート殻	アスファルト・コンクリート殻
	全処理委託量	106.76 t	798.06 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	1.40 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	105.36 t	798.06 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・可能な限り優良認定処理業者を選定し委託する。 ・委託先の業者については、許可の有効期限、取扱品目、追跡調査を行い適正な処理が実施されているかを確認する。 ・廃棄物の分別を徹底し、再生利用業者への処理委託を推進し、最終処分量の削減を図る。		
※事務処理欄			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	建設汚泥
	全 処 理 委 託 量	12.17 t	1.20 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	12.17 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	1.20 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	（これまでに実施した取組） ・ 協力会社に製品梱包材の簡素化及び持ち帰り協力を依頼。 ・ 影響範囲ができるだけ最小となるように施工し、排出を削減。 ・ 排出まで適正な管理を実施。 ・ 製品梱包材については、協力会社に持ち帰りを依頼した。		
②計画	【目標】 前年度排出量の20%削減		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	建設汚泥
	全 処 理 委 託 量	9.74 t	0.96 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	9.74 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	0.96 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	（今後実施する予定の取組） ・ 協力会社に製品梱包材の簡素化及び持ち帰り協力を依頼。 ・ 影響範囲ができるだけ最小となるように施工し、排出を削減。 ・ 廃棄物の分別を徹底し再生利用への推進を図る。 ・ 排出まで適正に保管する。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	混合（管理型含む）
	全 処 理 委 託 量	255.55 t	0.55 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0.42 t	0.55 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	255.13 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	（これまでに実施した取組） ・委託基準に基づき、産業廃棄物を委託できる業者を選定するとともに、書面による委託契約を交わしている。 ・排出まで適正に管理した。		
②計画	【目標】 前年度排出量の20%削減		
	産業廃棄物の種類	木くず	混合（管理型含む）
	全 処 理 委 託 量	204.44 t	0.44 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0.34 t	0.44 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	204.10 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	（今後実施する予定の取組） ・可能な限り優良認定処理業者を選定し委託する。 ・委託先（最終処分）の業者については、許可の有効期限、取扱品目、追跡調査を行い適正な処理が実施されているかを確認する。 ・排出まで適正に管理する。		